

ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。今年は暑くて長い夏が終わったかと思えば、秋が短くて、いきなり冬がやってきた感じのたいへんな1年でしたね。

このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。今年はACTが始まって10年目のアニバーサリーイヤーでした。それでは中学校での5月から9月までのACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第13号 2023年12月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなに？

2014年度にスタートしたアート・コミュニケーション・トレーニング（ACT、旧称SST）は「人と人との関わりながら生きていくために」をテーマとする、**湯河原町発のコミュニケーション教育**の一環として、今年度、10年目を迎えました。

描く、作る、聞く、話す、書く、そして考えるといった様々な「芸術活動」を通じて、自分自身や他者、そして社会との関わり合いの中で生きていくための力を学ぼうとするプログラムです。

このプログラムでは「試行錯誤」や「紆余曲折」そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。また、ここでの個人作業・共同作業が、目標（課題）を達成するための手段ではなく、作業することそれ自体に価値があるという考えも含まれています。

そして、この時間に生じる「生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラー」を共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有していきます。

「他者との比較による自信（＝優越感）」ではなく、自分への信頼によりGOサインを出し、目の前にあるものに挑み、たとえ失敗しても自分を認めてあげられること。それらを繰り返していくことで「自分自身に信頼感」が生まれてくると考えています。

「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える。

ここではその**自分への信頼感を自信と呼びたい**と思います。その過程で「身をもってわかること→知る」、つまり、実体験から得た知恵が意識され、蓄積され、それらが次の機会に活かされることこそが「成長していくこと」と言えるでしょう。

世界の大きな変化の波の中で生活の変容を余儀なくされている現在において、「**人と人との関わりながら生きていくために**」というACTの主題はこれまで以上に重要なものになっていくと考えられます。

「あそんだ地図」



2023年5月12日(金)に1年生のみなさんと。

1年生の1回目は恒例の「あそんだ地図」。小学生の頃に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出して、自分なりの地図として描いていきます。最後にそれをグループ内で発表し合う、ちょっと変わった自己紹介。地図を描くということも、それを友達に説明するというのもなかなか難しいものです。なのでうまく

描けない、話せない生徒もたくさんいます。だけど、そういう「うまくいかない」という場面は、今の自分を知るための貴重な経験でもあるのです。苦手は苦手でもいい。できることをできるだけでOK。それよりも自分のことを知ってもらえた嬉しさ、友達のことを知ることができた楽しさ。そういうコミュニケーションが大切です。

生徒たちからは「地図を描くことが思ったよりも難しかった」「席替えしたばかりだったので、班の子と話せてよかったし、振り返ってみると楽しいことがたくさんあった」「色々なことを思い出して少し懐かしい気分になった」「これをしたおかげで自分のことも知ってもらえたし、班のみんなの意外な一面も知れたのでよかった」「友達のエピソードがすごく面白くてずっと笑っていた」「けっこう忘れていたこともあったし、思い出せてよかった」などの感想がありました。

「描くをかさねる」

3年生の初回は「描くをかさねる」でした。

二人一組のペアになりオイルパステルで一つの絵を描くのですが、いくつか手順が決まっています。まず、お互い1本ずつ順番に黒線を引いていきます。ポイントは、相手の線と自分の線を交差させることです。それを計6本描きます。次に、交差線によって偶然生まれた形(面)に色を乗せていき、時間が来るまで色を重ね続けます。この時も相手が塗った面の上であっても、構わず色を乗せていきます。

つまりこの絵は「相手に忖度しないで描く」ということです。「どうすればこの絵はよくなっていくかということに集中してね」と伝えてから作業をしてもらいました。

一見はちゃめちゃなこの描き方。生徒たちはどんな感想をもったのでしょうか? 「今日描いた絵は向きなど見方を変えることで色々感じられるから面白い」「相手の考えが分からないからこそ、より想像が大きくなりよい作品がつく



2023年6月1日(木)に3年生のみなさんと。

れる気がした」「どの作品も具体的に言えば『おおー!』としか言えなくて、それが抽象画なんだと思った」「点・線・面と色での対話、おもしろいと思った」「決められたものを描くのではなく、決められた物事の中で自由に描くことで発見があったり、感情の変化があったり。人と人の対話を感じた」などなど。

「フロッターージュ」



2023年6月16日(金)に2年生のみなさんと。

1920年代にフランスで始まったシュルレアリズムの絵画技法の1つであるフロッターージュ。簡単にいうと表面の凹凸を紙に写し取っていく技法です。このワークではベニア板と植物をフロッターージュします。しかも各自に配られた板には、毎年このACTで先輩たちが釘でつけた「ひっかき傷」が痕跡としてあります。

そこに「今の私」も1本の痕跡を引いてから始めます。表現をしようとしないうこと。上手く描こうとしないうこと。自分を消すほどに集中し、目の前のものと丁寧に向き合うことで、はじめて見えてくるものがあります。

生徒たちからは「みんなも、自分も静かに取り組めて、たまにはこんなことするのもいいな、と思った」「葉っぱの形が美しかった。自然はすごい。悩みなどの思いを気にせずにできた」「優しくゆっくりフロッターージュをして眠くなってきたり、心が穏やかになった」「なんか安心する空間だった」「最近、1つのことに集中したことがあまりなかったので、この世の全てを知ったような気がした」「擦り取っていると葉と先輩がつけた線が浮かび上がってきて、先輩に見られているような気がした。次は後輩がすると思うので、どう思われるかが楽しみ」「集中して時間が早く過ぎた。葉っぱから匂いがした」などの感想がありました。

「夏みかんの量感画」

8組のACTは、心に感じたことをそのまま表に現し、それを講師や先生、友達に圧倒的に肯定される場を作ることによって、表現の楽しさを知り、それが生徒個々のウェルビーイング（良好な状態＝調和のとれた状態）へとつながっていくことを目指しています。

例えば、自分に対してポジティブな態度を持つこと。他者とあたたかく、満足できる信頼関係を持つこと。自己決定感を持つこと。目標と方向性を持つこと。そして、自分が成長し続けている実感を持つこと。こういった感覚を芸術体験を通じて育てていきたいと考えています。

今年の1回目は「夏みかんの量感画」です。湯河原生まれの夏みかんの形や手触り、匂いなどを感じながら、感じたままにのびのびと表現しました。いつもと視点を変えることで、感じ方や表現が広がることを体験します。何よりも上手/下手の概念にとらわれずに、自分の感覚を大事に表現する楽しさを感じることを目指します。



2023年6月28日(水)に8組のみなさんと。

匂いが苦手！なんて生徒もいたりして、アプローチは人それぞれでしたが、数行程ある作業を1つずつ丁寧に（時に大胆に！）クリアしていきました。最後に絵を切り取って、好きな色の台紙に構成。十人十色の個性的な夏みかんの量感画が完成しました。生徒たちはそれぞれの「やり切った感」を持って、最後の鑑賞会を楽しんでいました。

「Inter-View ～お互いの風景を眺める」



2023年7月7日(金)に3年生のみなさんと。

今年の新作ACT。1年生の時の「対話ってなんだろう」では「対話では聞く側の態度によって、その場の質が決まる」ということを、失敗のロールプレイを通じて楽しく体験しました。今回は実践編。ただし、対面で話すのではなく、隣りあって座り、相手の顔ではなく、同じ風景を見ながら相手の話を聴いていく時間、

インター・ビュー＝お互いの風景を眺めあう時間。テーマは「最近、思っていることを1つ」。学校のどこで話してもOK。でも少しだけルールを。①隣に座って話を聞くこと、②相手が話しやすい雰囲気をつくること、③最後に「自分のこと」は話さずに、相手に感想を伝えること。また、内容は提出しないことにしました。「いまだから、あなただから、話せたこと」ってということもあるでしょうから。

生徒たちからは「今回はあまり話したことがない子が相手だったので初めて知ったことがあったりして楽しかった」「人と話すの好き！と思った」「大きくなるにつれて異性と話さなくなることが多いと思うが、ここでは気にせずに話せた」「対面でないからこそ話しやすさがあった」「相手は僕に対して嘘を言わず、本当のことを話してくれた」「話している時、風が気持ちよかった」などの感想がありました。

「ダンボールハウスをつくろう」

ACTの集大成とも言える、大盛り上がるのアクティビティ。通称、湯フェス！湯河原町の皆様のご協力で集まった、たくさんのダンボールを使ってクラスで1つの家を作ります。事前の話し合いも、設計図も、役割分担もない、まさにぶっつけ本番。その分いろんなやりとりが展開するエネルギッシュな時間です。

感想には「あえて計画を立てないでその場で考えることはすごく楽しかった」「目標に向かって集団で何かを行うときにはすごくコミュニケーションが大切だと感じた」「計画や作戦、役割があったわけじゃないのに、みんなで力を合わせて作った感じがした。みんなとの絆を感じた」「作ったものをすぐに壊すのももったいなかったけど、作るのも、壊すのも楽しかった」「作業をしているといろんな子と話すことができうれしかった」「作戦会議なしでみんなでこんなに素晴らしいものをつくれるん



2023年9月15日(金)に3年生のみなさんと。

だとクラスの新たな一面を知れた」「最初みんなバラバラで何を作るのかも分からなかったけど、だんだんと協力し始めた。会話も増えた！」「最後になるにつれ、クラスの全員が一心同体になるのを感じた」「ACT makes me happy!」などの感想がありました。

それではまた次号でお会いしましょう！